

盛大に「子どもの集い キッズサンガ」開催



真夏に子どもたちの声、境内に響く



親鸞聖人七五〇回大遠忌法要にむけて本願寺派少年連盟では、「子どもの声が聞こえるお寺に」をスローガンに掲げ、全寺院における少年教化活動の促進をめざしている。これを受けて和歌山教区少年連盟では、今年度より各ブロックにおいて「子どもの集い」が開催されている。

有田南組「夏休み子どもの集い」
八月四日に、有田南組福蔵寺を会場に「夏休み子どもの集い」が開催された。開会式では、組長から、「おみやげはたくさんありますが、心のおみやげを持ちかえってください」とのあいさつ。続いて「動物園は心の学校」と題して、元神戸王子動物園

飼育技師・学芸員の亀井一成先生の講演が行われた。「人間も象もチンパンジーも生きとし生けるものすべては同じ尊い「いのち」であり、重い軽いはない。動物園に行けばたくさん生き物に出会えますが、決して面白おかしく見るのではなく、私と同じいのちであり、私と同じ一生懸命いきているんだという、そんな思いで動物に接してほしい。」と語り、子どもたちは熱心に聞き入っていた。講演後、先生から一人ずつサインを貰い、貴重な一時を過ごした。参加者は六十五人。

発行 和歌山教区基幹運動推進委員会
編集 教区報編集委員会
和歌山市鷺森1番地
鷺森別院内
電話 和歌山(073)422-4677
FAX 和歌山(073)428-2450
発行人 水上 義 乗

第一回海草組「子どもの集い」
八月二十日には、第一回海草組「子どもの集い」が海草組西方寺をメイン会場に五十二人の子どもたちが集合し「子どもの集い」が開催された。一年以上前から組内で打ち合わせ会を開き計画、組内寺院住職、坊守、寺族、門徒総代会、仏教壮年会、仏教婦人会等総勢五十人が協力。レクリエーションでは、少年連盟委員長をはじめ教区内寺族青年が協力し、パネルシアター「くもの糸」「とんでったバナナ」「カレーのうた」(少年連盟作製)の上映をはじめ、「カン積み」「たのもう」などのゲームをして楽しんだ。流しそうめんは、一ヶ月程前から、門徒総代さんが竹を切り出して、そうめんがうまく流れるようにと工夫を凝らし道具を作製。目の前を見事にそうめんが流れていく様子に子どもたちも大喜び。また仏婦会員が腕をふるったカレーをほおぼり「おいしい」を連発。このほかにウォークラリー、お念珠づくり等、子どもたちはこの一日たくさんのお話を学び、楽しんだ。

基幹運動のページ

教区基幹運動推進の

今後の課題

和歌山教区基幹運動推進委員会（会長＝水上義乗教務所長）では、各部会ごとに「教学・同朋運動・連研」を始める。また、ビハラーを始めとする社会活動などさまざまな分野で取り組みを進めているが、同委員会では現在、課題となつていく上での問題点などの見直し作業を進めている。そこで、今回は、この二つの研修会について報告することにした。

僧研2015年

現在、企画常任委員会では、教区僧研と組僧研についての問題点などの協議を行っている。

まず教区僧研は、前期に「教学」と「同朋運動」後期では「基幹運動の研修」として開催している。

ここ近年では参加者の状況は著しい減少傾向にあり、このままでは運動の後退ともなりかねない。参加者の減少もさることながら、顔ぶれもほぼ毎回同じ人の参加者であるということも、大きな問題である。これまで一人でも多くの人が参加してもらおうと、いろいろな方策を取ってきたが、なかなか成果が出ず今回に至っている。

そもそも僧研は、僧侶一人ひとりが問題意識をもって基幹運動を推進するための研修の場。その意味で組僧研も同様。今後はより参

加しやすい教区・組僧研の充実を図ることで現状の打開を探っていくと考えている。

ただ現在の組僧研は、教区並びに組の間での共通理解・共通認識が必ずしもとられてなく、また、中央(本山)の開催要項にそつたものでない場合もあることも事実。

こうした現状を踏まえて、他教区でも実施されている組僧研に携わるスタッフの研修と講師や推進者を養成していくための「講師団研修会」を和歌山教区でも実施していく方向で検討を行っている。講師を養成することによって、各組とも同じ趣旨のもと開催することが可能になるとみているのが最大の理由。

そこで、この方策の実現の第一歩として、今回、九月二十八日に組基幹運動推進関係者協議会を開

催。組僧研を中心に組の現状について意見交換を実施し、教区基幹運動の推進を図っていくことがネライ。この協議会については次号で報告したい。

連研2015年

連研(門徒推進員養成連続研修会)は、門徒の先頭に立って教団の再生のために僧侶とともに基幹運動を推進する人を養成する研修会のこと。

和歌山教区ではこれまで連研修了者は約二千人を越えるが、門徒推進員は三十四人しかいないという現状。

なぜ、そうなのか、その理由について、現在、第三専門部会と教区門徒推進員連絡協議会において分析しており、次の点があげられる。

①連研を受講した人が中央教修の受講へとながっていない。

②連研が門徒推進員養成のためよりも門徒の連続研修会になっていること。

①については、年齢制限の問題もあるが、②と連動して、連研のスタート時点で、連研の目的(門徒推進員)がアピールされず門徒

徒の真宗講座的要素で開催されていることがあげられる。

各組においてさまざまな事情があるが、まず「連研は門徒推進員を養成していくもの」という位置づけをはっきりさせていくことが急務と考えている。

今後、これらの問題点の打開に向け、連研が各組においてどう位置づけられているのかを把握し、見直し策について議論していくことにしている。

さらに、約二千人を越える連研修了者の中から、中央教修受講者を発掘していくとともに、定期的な研修の場が大切になる。寺院にとつて修了者は、門徒推進員となつていなくても教化活動・寺院活動を進めるべく貴重な存在であるのは確か。その方々への働きかけが教区において不完全であるため、今後、「連研修了者の集い」を開催して、アフターケアを図っていくことを検討している。

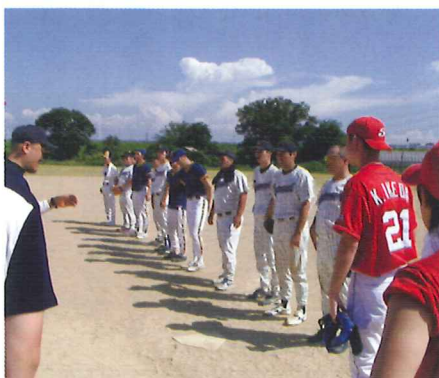
以上、「僧研」「連研」について、さまざまな問題点が露呈しているのが現状だが、今何が問題なのかをまず把握することから、運動の推進を図っていききたい。

—教区相談員 津村清信—

教化団体のページ

第3回 寺族青年連盟

和歌山教区寺族青年連盟は、今年で二十周年を迎えます。この節目にあたり、発足から今日にいたるまでの寺青の取り組みを振り返り、今後の方向性、具体的活動方針を検討し、実行していきたいと考えています。



その一つの取り組みとして、今年度より、新たに、「例会」を開催しています。毎回の例会時に、参加者に次回のテーマを決めていただき取り組むことで、寺族青年が持つ今の課題や悩みを一緒に考え問題を共有し、情報や意見の交換ができる場となり、今後の寺院活動が一層活性化することを願っています。次回は、十月六日(金)午後七時から鷺森別院にて開催します。

テーマは「寺院の活性化に向けて(仮称)」講師は、稲垣貴史(第四専門部会長、教区少年連盟委員長)さんです。現在、各寺院が抱える問題は山積していますが、殊に、過疎化、少子化の問題は今後の寺院活動に多大な影響を与えると思われまふ。今、私たちはどんな活動ができるでしょうか。教化活動の促進という視点からみんなで一緒に考えていきたいと思ひます。



事業紹介

- ◇総会・花見懇親会
- ◇全国寺族青年軟式野球大会
- ◇近畿地区寺族青年軟式野球大会
- ◇例会
- ◇和歌山県青年僧の会
ボーリング大会
- ◇ホームページの運営
<http://www.saginomori.jp/>

委員長に聞く



和歌山東組
聞光寺
中牟田 貞良さん

大学生時代から九年間、委員として参加。寺族青年連盟委員長に就任して約一年が経過した。きっかけは本人曰く「委員長っていつでも大したことはないよ。やってみたら?」と、周囲にすすめられて軽い気持ちで受けてしまった、とのこと。

主な連盟の活動としては前委員長の計画案を引き継ぎ、総会・研修会・花見・真宗青年の集い・野球・少年連盟の行事の手伝い等を行っている。

委員長になってからの苦勞を聞くと、「参加者を集めるのが難しい。寺族青年対象者のほとんどが、学生や就職している人で、その多くは和歌山県外に住んでいる。また、学業や仕事で忙しく、気軽に参加しにくい状況にある。それに加え最近、学習の場・娯樂が多

様化する時代。一人で、または、気の合う少人数で何かしようと思えば簡単に出来てしまう。その中で団体行動の意味が薄れ、煩わしく考える人が増えつつある。今後の活動における不安な要素である」と分析する。

委員会については、「様々な意見を出してもらうことはとても有り難い。でも、その後で内容をうまくまとめることが大変」とちよつぱり本音も…。

今後の連盟の活動については、「魅力ある活動を企画し、連盟のメンバーを増やして、より多くのお寺同士の関係を密にしていきたい。そうすることが各寺院の助けや活性化につながっていくはずだから」。また、「全ての組織の行事等に若い人(連盟メンバー)がほとんど参加して、顔を覚えられにくらいになってほしい」と語ってくれた。

今後、寺族青年連盟では、寺族青年連盟に対する意識や要望・寺族青年対象者の現状調査アンケートを各寺院に実施する予定。

「ぜひともご協力のほど、よろしくお願ひします」と締めくくってくれた。

お寺の雑学

右と左では

前回如来様の螺髪らまつが右巻きということを紹介しましたところ右と左についてご質問をいただきました。そこで今回は、参考となるであろう右と左についてのおはなしです。

合掌する姿は、人間の最も美しい姿の一つといわれています。合掌はいままでもなく右手と左手を合わせます。古来よりインドでは右手は口に入れるものを、左手は不浄なものを扱う手とされて、両手を合わせるということは、浄・

不浄が一つに合わさるといいうように解釈されます。

また、行道ぎょうどうは右回りに、さらに『大経』には右繞うづま三市さんしち(右回りに三度まわる)という如来様への供養作法くわうぼうさが説かれています。

ところで、偏袒へんたん右肩みぎかた長跪ちやうかい合掌ごうしやう(『大経』)と漢訳されている部分について、もともとは、片方の肩だけを衣で覆い云々とあるのを、衣の右肩をはだ脱ぎ、両膝を地につけてひざまずいて合掌する礼法をもって(浄土真宗聖典)、と意訳したものです。どちらとも指定

していなかった肩を、あえて左肩を覆った姿を連想し、このように翻訳したと考えられます。

僧侶の袈裟けあさにしても、七条袈裟は右肩に横被おうひを着けるにしても左肩はすっぽりと覆います。五条袈裟は威儀いぎを左肩に乗せます。

インドの習俗では、古来、左肩を向けるとか、見せるということには否定的であったに違いないと思われまふ。浄・不浄、清濁せいじやくということもかんがみて、当時の習慣が、現在にも及んでいるとうかがい知ることができます。

お堅いイメージで知られる岩波新書から刊行された冠婚葬祭の本。著者が斎藤美奈子さんということもあり、ついつい手にとってしまった。

斎藤さんはフェミニズム系の文芸評論家として

気になる一冊

冠婚葬祭のひみつ
斎藤美奈子著 岩波新書 740円



多くの著述のある方ですが、冠婚葬祭に関してはズブの素人。しかしながら、明治以降現在に至るまで刊行された数多くの冠婚葬祭に関する文献を読み込み、その核心をずばりと示す腕前はさすがその道のプロ。

現在の冠婚葬祭に関するマニュアル本でもっともらしく説かれている伝統・しきたり・作法というものがある。明治以降に新たに作られた

ものであるということを経妙なタッチで解き明かしています。

冠婚葬祭の場面において私たちが縛られがちな「伝統」という言葉に代表されるようなものは、確固とした固定的なものではなく、社会の変容にともない様々に形を変え、さらに今後も社会のあり方に寄り添うようにその形を変えていくのだろう。この本のタイトルにある「ひみつ」とは、このことなのかもしれません。

二〇〇七(平成十九)年版
法語カレンダー・法話集
予約受付中

ご好評いただいております真宗教団連合発行の「法語カレンダー」並びに「法話集」を本年も教務所を取り扱いますので、ご利用ください。



価格

・法話カレンダー
一部一五〇円

・法話集

「月々のことば」

一冊七三五円

・法話集

「心に響くことば」

一冊一二六円

申込方法

教務所より送付させていただきます。お電話にて教務所までお申込ください。(担当・小山)
受付締切は十二月九日。

*****教区だより*****

2006年7月

- 1日 有田南組御消息披露・記念法座
- 1日 和歌山北組御消息披露・記念法座
- 1日 勤式講習会(鷺森別院)
- 3日 ビハーラ委員会
- 5日 海南組御消息披露・記念法座
- 5日 少年教化寺族女性研修会(本山/6日)
- 6日 矯正教化連盟大阪管区支部連絡協議会(大阪)
- 9日 平和を希う念仏者の集い
- 12日 寺婦連盟役員会
- 13日 社推協評議員会
- 14日 基推委第1専門部会第2専門部会合同部会
- 15日 勤式講習会(日高別院)
- 15日 門徒推進員連絡協議会・研修会
- 18日 門徒総代会委員会
- 19日 社推協中央研修会(本山/20日まで)
- 21日 世界仏婦大会説明会
- 24日 児童念仏奉仕団(本山/25日まで)
- 24日 近畿ブロック講社議員研修会(滋賀/25日まで)
- 27日 基推委企画常任委員会
- 27日 世界仏婦大会担当者会議
- 28日 教区報編集員会
- 31日 僧侶研修会
- 31日 第3連区ビハーラ協議会

- 9日 第3ブロック門信徒総研修会(日高別院)
- 10日 第2ブロック門信徒総研修会(海南市民交流センター)
- 11日 教区報編集委員会
- 11日 第3連区布教使研修会(大阪/12日)
- 13日 人権フォーラム(京都)
- 14日 近畿寺婦研修会リーダー会
- 16日 勤式講習会(日高別院)
- 18日 千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要
- 19日 教区報レイアウト委員会
- 27日 加談会
- 27日 臨時教区会
- 28日 組基推委関係者協議会
- 29日 近畿寺婦研修会スタッフ会
- 29日 同宗連

10月

- 3日 近同推寺婦研修会(京都/4日まで)
- 4日 基推委企画常任委員会
- 7日 勤式講習会(鷺森別院)
- 11日 少年教化アドバイザー研修会(本山/13日まで)
- 17日 少年連盟委員会
- 21日 勤式講習会(日高別院)
- 23日 仏壯連盟「聞法の集い」
- 24日 近畿ブロック寺婦研修会事前準備
- 28日 近畿ブロック保育大学講座(和歌山/29日)
- 30日 近畿ブロック寺婦研修会前日準備
- 31日 近畿ブロック寺婦研修会(和歌山)

8月

- 2日 近畿ブロック寺婦連絡協議会
- 3日 近同推研修部会
- 4日 第2ブロックキッズサンガ(有田南組)
- 5日 全国真宗青年の集い(宮崎/6日)
- 20日 第1ブロックキッズサンガ(海草組)
- 23日 教区会計監査
- 24日 常備会
- 25日 近畿地区寺青野球大会(和歌山)
- 30日 近畿地区議長会(和歌山)

11月

- 4日 勤式講習会(鷺森別院)
- 10日 中央若婦人研修会(本山/12日)
- 18日 勤式講習会(日高別院)
- 24日 各教化団体報恩講研修会(28日まで)
- 30日 教区相談員研修会(本山/12月1日まで)

9月

- 1日 仏婦連盟世界大会(ハワイ/7日まで)
- 2日 勤式講習会(鷺森別院)
- 4日 冊子委員会
- 8日 基推委第2専門部会
- 9日 第1ブロック門信徒総研修会(鷺森別院)

12月

- 1日 歳末助け合い街頭募金
- 2日 勤式講習会(鷺森別院)
- 6日 中央基推委研修会(本山/8日まで)
- 9日 子どもの報恩講
- 16日 責任役員・門徒総代辞令伝達式
- 16日 勤式講習会(日高別院)
- 27日 教務所冬期休暇(1月8日まで)

別院だより

鷺森別院

【常例法座】毎月十五・十六日 午後一時半

十月 藤沢めぐみ師(京都教区)

十一月 岡橋聖舟師(京都教区)

十二月 門中浄光師(兵庫教区)

【報恩講】

十一月二十四～二十八日 午後一時半

葦原理江師(熊本教区)

※二十七日は午後七時から御伝

鈔拝読。続いて通夜布教。

※二十八日のみ午前十時

【元日会】

一月一日 午前七時

引き続き御流盃式

日高別院

【常例法座】十月二十日 午後一時半

上谷良昭師(兵庫教区)

【報恩講】

十二月四～六日

伊藤智誠師(奈良教区)

晨朝法要午前七時

速夜法要午後一時半

初夜法要午後七時

※四日は速夜・初夜法要のみ。六日は晨朝・速夜法要のみ厳修。

【除夜会】

十二月三十一日 午後十一時半

【元旦会】

一月一日 午前零時半

平和について 深く考える一日

去る七月九日に鷺森別院・本堂で「平和を希う念仏者の集い―全戦没者追悼法要―」が開催され、約四百人が参拝した。

午後一時半から、全戦没者追悼法要が営まれ、続いて「かりようびんが鷺森」による仏教讃歌の指導と記念講演が行われた。

講演では沖繩の米軍普天間基地に隣接する「佐喜眞美術館」館長佐喜眞道夫さんが、画家の丸木位里・俊夫妻との交流を通して、夫妻が描いた美術館常設展示の「沖繩戦の囚」に表現されている戦争の悲惨さや戦争のない世界を願う思いについて語った。

僧侶研修会が開催される

参加者一同、平和について深く考える一日となった。

教区基幹運動推進委員会は、七月三十一日に僧侶研修会を鷺森別院本堂で開催し、九十人が参加した。講師には龍谷大学名誉教授の浅井成海先生を招き、午前は教学研修。「ただ念仏の継承と展開」をテーマに法然上人から親鸞聖人へ継承されたご法義を『選択集』と『教行信証』を通じて、特に往相回向と悪人

正機に重点をおいて学んだ。午後からは「信心の社会性」のテーマのもと同朋研修が行われ、信心と社会実践、往相還相の信心についての講義が行われ、研鑽を深めた。

門信徒総研修会 ―各ブロックで開催―

テーマは「いのち きびしくあたたかく」総勢八百五十人が参加した。

第一ブロック(海草組担当)

九月九日鷺森別院で開催。講師は真宗大谷派の僧侶でシンガーソングライターの鈴木君代さん・天白真央さん。「いのちの花をさかせよう」と題し、法話コンサートが行われた。

第二ブロック(加茂組担当)

九月十日海南市民交流センター



で開催。「かりようびんが鷺森」によるコーラスと元朝日放送勤務で児童文学作家の中川真昭さん(奈良教区)が「いのちをみつめて」と題し、仏教讃歌を通してのご法話が行われた。

第三ブロック(御坊組担当)

九月九日高別院で開催。講師は、第二ブロックと同様中川真昭さん「見えないものが見えてくる 聞こえないものが聞こえてくる」と題してご法話が行われた。

第十三回世界仏婦大会



第13回世界仏教婦人会大会 和歌山教区 2006年9月1日

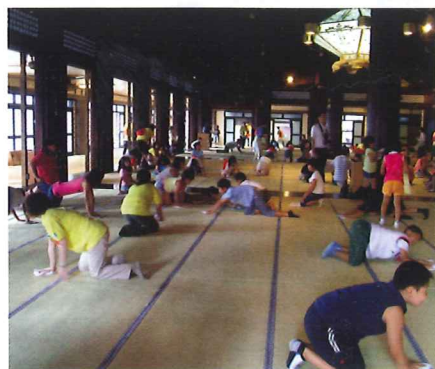
第十三回世界仏教婦人会大会が、九月一日〜三日にハワイ・ホノルルコンベンションセンターで「世の中安穏なれ 仏法弘まれ」をテーマに開催された。参加者総数は日本(約二千七百人)をはじめ、各開教区より

約四千人が一同に集った。当教区からは観光を兼ね、一日〜七日にかけ、四十四人が参加した。

児童念仏奉仕団

―今年も本山で開催される―

七月二十四日・二十五日の日程で、児童念仏奉仕団が実施され、和歌山教区より、四十三人の子どもたちが参加した。元気いっぱい本山の清掃奉仕・ゲーム等を楽しんだ。



第十一回近畿地区 寺族青年軟式野球大会

去る八月二十五日に第十一回近畿地区寺族青年軟式野球大会が和歌山で開催された。当教区のTEAM SAGI NOMORIは健闘むなしく四位という結果に終わった。

近畿ブロック寺婦研修会 参加者募集

二〇〇六年度 近畿ブロック寺婦研修会を左記の通り和歌山教区担当にて開催します。
寺族婦人の皆様、是非ご参加ください。
詳しくは、各組寺族婦人会連盟委員へお問い合わせください。

各教化団体報恩講習会のご案内

毎年鷺森別院の報恩講習期間中(十一月二十四日～二十八日)に各教化団体の研修会が開催されます。
今年の日程は次の通り。

近畿ブロック寺族婦人研修会

と き：2006年10月31日(火)
 ところ：本願寺鷺森別院 本堂
 時 間：11:30 受付/13:00 開会
 13:30 講義
 「親鸞聖人の念仏の道」
 岡 亮二 先生
 14:45 記念公演
 ハーブ演奏
 15:30 閉会

十一月
 二十四日(金) 寺婦連盟
 二十五日(土) 門徒総代会
 二十六日(日) 仏壯連盟
 二十七日(月) 仏婦連盟

なお、日程は午前研修会、午後報恩講習の予定となっております。詳細につきましては、後日各教化団体からの案内状にてご確認ください。

本派社推協 チャリティーバザー 街頭募金に協力を呼びかける

本派社会福祉推進協議会和歌山教区支部では、鷺森別院報恩講にあわせ、十一月二十七日正午よりチャリティーバザーを開催します。

なお、出品物が年々減少傾向にありますので、ぜひともご協力いただきたくよろしくお願ひ申し上げます。

また、十二月一日(金)には、午後二時より「歳末助け合い街頭募金」を実施します。実施場所は、JR和歌山駅西口、南海和歌山市駅前広場です。こちらの方も多くの皆さまにご協力いただきたく併せてお願ひ申し上げます。
詳細は教務所まで。

十二月九日(土) 子どもの集い 「子どもの報恩講」開催

和歌山教区少年連盟では、毎年恒例の子どもの集い「子ども報恩講」を左記の通り開催する。
期日 十二月九日(土)
会場 本願寺鷺森別院
内容 子ども書道・絵画展の表彰、昼食(カレー)、ゲーム等
※詳細は後日ご案内いたします。



「責任役員・門徒総代・辞令伝達式」

十二月十六日(土) 午前十一時から、鷺森別院本堂にて、「責任役員・門徒総代辞令伝達式」が行われます。

各寺院において、新たに責任役員・門徒総代に就任された方、本山よりの辞令を教務所長より伝達していただきます。
詳しくは、約一ヶ月前に各寺院へご連絡しますので、お問

合せてください。

得度

宮本 広喜	和歌山 善能寺
齋藤 亮治	加茂 青蓮寺
藤澤 眞実	海南 光澤寺
藤岡 理紗	有賀 専念寺
茂野 大五郎	有田北 浄念寺
伊藤 恭孝	有田北 教念寺
津本 和子	御坊 天性寺
小西 守	御坊 天性寺
山本 美美子	紀南 善照寺

教師

小川 眞史	和歌山西 松専寺
武内 淳	和歌山北 善勝寺
津村 雅明	海草 永光寺
岩本 真憲	有田北 西明寺

逝去

藤 寿子 紀南組 善福寺
前坊守・衆徒
平成十八年七月四日

松本 文雄 和歌山東組 光永寺
住 職 平成十八年八月二日

大畑 正法 日高組 明光寺
住 職 平成十八年八月六日

岩橋 裕隆 紀南組 覚照寺
前住職 平成十八年八月十九日

ご生前のご活躍・ご尽力に感謝申しあげ、謹んで敬弔の意を表します。